

■学校経営のポイント

デジタル時代の情報教育の充実

小島 宏

現在、子供たちは、学校で1人1台のタブレットを持って学習している。個人でもほとんどの子供がスマホを所持し、自由に楽しんでいる。

そこで、デジタル時代に応じた情報教育の充実が求められる。そして、情報の適切な活用の仕方に加え、トラブルの被害者にも加害者にもならないための情報モラルの指導が必要である。

情報教育のねらいの確認

情報教育の目標は、子供に次のような情報活用能力を育成することであり、発達段階に応じて、体系的に指導することになっている。

- 必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造するなどの「情報活用の実践力」
- 情報活用の基礎となる情報手段の特性を理解するなどの「情報の科学的な理解」
- 情報モラルの必要性や情報に対する責任などの「情報社会に参画する態度」

情報モラルに関する指導内容

情報モラルとは、「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」で、具体的には次のような事柄である。

- 他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつこと
- 犯罪被害を含む危険の回避など情報を正しく安全に利用できること
- コンピュータなどの情報機器の使用による健康との関わりを理解すること

子供を取り巻くトラブルの様相

ところで、情報技術やサービス、子供のインターネットの使い方の変化に伴い、スマホの過度な使用による生活の乱れや健康障害、メッセージアプリでの

誹謗中傷や仲間外れ、個人情報の漏洩、悪意で設置されたWi-Fiスポットの使用による情報の流出、ネットを介した個人間取引による被害、メールからの誘導によるフィッシング詐欺被害、虚偽情報の発信、不適切な投稿、脅迫行為や犯行予告、自撮り写真や動画の交換などによる被害・暴力・違法行為、成人向け不適切動画などの視聴、SNSによる誘い出しによる被害、著作権侵害などのトラブルが生じている。

学校には、これらに関する自校の実態を捉え、適切な指導をすることが求められる。

情報モラルとトラブルに関する指導

情報モラルを確実に身に付けさせるためには、情報の収集、判断、処理、発信など情報を活用する場面で具体的に学習させると効果的である。

また、情報に関する法やルール、情報活用におけるトラブルなどについても、事例を基に、問題解決的に学習させるようにする。

そして、現在、被害者にも加害者にもならないようにするとともに、今後の新たなICT機器の発達や危険の出現にも適切に対応できるようにする必要がある。その際、道徳科や特別活動にとどまらず、各教科等や生徒指導との関連を図り、全教育活動を通じて進めるようにする。

校長のリーダーシップ

情報モラルの指導は、年間を通じて指導するとともに、子供が自由に過ごす夏休み前に指導しておきたい。当然のことながら子供を指導する教師自身が、情報モラルを率先垂範すべきであると自覚し、行動するようにしたい。

なお、情報モラルに関する子供の行動は、学習活動の時間を超えて、私生活に及ぶことであることから、保護者等との理解・協力・連携にも努めたい。

(こじま・ひろし＝元東京都公立小学校長・(公財)豊島修練会顧問)

●答申・通知のポイントが3分でわかる！《好評発売中！》
マップ&シートで速攻理解！ 最新の教育改革 2022-2023

金子一彦【編集】 B5判／216頁／定価2,420円(税込)

